

日本選手団、メダルにわく！ 個性輝く技能の祭典

—2007年ユニバーサル技能五輪国際大会
第7回国際アビリンピック
開催（11月14日～18日）

（文）清原れい子 （写真）小山博孝／岩尾克治



日本選手団の結団式で代表選手の決意表明

結団壮行式・開会式

ユニバーサル技能五輪の日本選手団は
二日、厚生労働省で結団壮行式を行っ

「第七回国際アビリンピック」は二〇〇七年一月一日から一八日まで、世界の若者が技能を競う「第三九回技能五輪国際大会」と初めて同時開催された。国際アビリンピックには、三十三カ国、九三九名が参加。そのうち技能競技には二六カ国、三七八名が参加して、日ごろの技を競った。二大会連続で金メダルに届かなかった日本選手団は、日本の『技』の力を世界に誇るかのように、主催国として大活躍。出場選手八一名のうち、四名がメダルを獲得、八名が特別賞を受賞した。海外の選手団からの評判もよかった。五日間の大会の模様をご報告する。

ABILYMPIC 2007

ABILYMPIC 2007

二〇〇七技能五輪国際大会旗を先頭に、オーストラリアから順に両大会選手団が入場する。国旗の小旗を振りながら、手を振りながら壇上を行進していく。にぎやかなブラジル、アビリンピックの競技に日本に次ぐ選手団が参加する中国。

雲一つない秋の青空に、新雪を抱いた富士山が浮かぶ。石川嘉延静岡県知事の「二月初めには初冠雪があり、一年中でいちばんすばらしい富士山がごろいだけだ」（本誌二〇〇七・四月号掲載）の言葉通りの景色。この上ない上天氣が、各国選手団を迎えている。富士山が夕焼けに染まるころ、会場の「グランシップ・大ホール・海」で、合同開会式が始まった。

November 14

た。ベージュのブレザー、赤に白と紺の縞模様のネクタイとスカーフ、チャコールグレーのスラックスで、三四一名の選手団が勢ぞろい。両団長のあいさつの後、技能五輪国際大会は濱口寛さん、国際アビリンピックは英文ワープロに出場する重定知佳さんが参加選手を代表して決意表明を行った。一行は、外添要一厚生労働大臣の激励のあいさつと握手に送られて、バスで静岡へ。静岡駅・東静岡駅では、ユニバーサル技能五輪国際大会の歓迎のバナーがはためく。

車いすの選手を先頭に入場してきた香港選手団には、会場の応援団から「ファイト！」の掛け声があがる。前回の開催国、インドは車いすの選手たちを真ん中に進む。韓国選手団にも大声援。ニュージーランドチームは、舞台上で『がんばるぞ』のパフォーマンス。アラブ首長国連邦の選手団は白い民族衣装。華やかで、心はずむ



選手宣誓する細澤安仁さんと篠原加代子さん。
三好博文さんは審査員代表（写真左より）



入場行進する日本選手団

明日から競技が始まる。
抱負を語る機械CADの高橋大輔さんたち



入場行進が続く……。

技能五輪だけの参加、アビリンピックだけの参加、初参加の国もある。しんがりは、会場内の選手団総立ちの中、日本選手団が入場。「初めての世界大会なのでドキドキ。ここまできたら、めいっぱいやるだけです。世界の選手たちとの交流も思いっきり楽しみます」と語っていた英文DTP出場の本田秀人さんが大きく両手を振っている。

御手洗富士夫日本組織委員会会長のあいさつなどの後、選手宣誓。技能五輪国際大会と国際アビリンピックの代表選手が壇上へ。アビリンピックは「コンピュータプログラミング」に出場する細澤安仁さんと「英文ワープロ」に出場する篠原加代子さん、審査員を代表して歯科技工を担当する三好博文さんが宣誓を行った。

ここで、大会名誉総裁の皇太子殿下から「障害の有無にかかわらず、ものを作り出す人と技のすばらしさが世界に発信され、誰もが互いに人格と個性を尊重し、支えあうユニバーサルな社会が大きく広がるよう願っています……」との言葉があり、厚生労働副大臣のあいさつ後、静

岡県知事が「世界六〇を超える国・地域のみなさま、ようこそ！」と歓迎のあいさつをして、開会式は終了した。

引き続きのアトラクションは、和太鼓、三味線、笙など、日本の伝統楽器の白熱のライブ。会場からは大きな拍手が送られた。その後、会場を移して選手交流会が行われ、翌日からの健闘を誓い合った。

「SKILLS 2007」のポスターのモデルとして登場。初日の機械CADに出場する高橋大輔さんは「できるかぎり練習しました。がんばります。日本人で金銀銅を取れたらいいですね」初日の生活余暇競技の「刺繍」に参加する西田茂子さんは、静岡県島田市に住む。「練習はしてきました。香川大会では完成できなかったので、今回は完成させたいです」

国際会議で基調講演を行うILO障害担当上級専門官のデボラ・ペリーさんは「アビリンピックでは、障害者の方々のすばらしい能力に非常に多くの注目が集まると思います。その影で、職を得ることとはもちろん、職業訓練を受ける機会すらない、何千何百万という発展途上国の障害者がいることを忘れてはいけません」とコメント。

いよいよ明日から、「静岡ツインメッセ」を会場に競技が始まる。

第39回 技能五輪国際大会

1950年から2年に1度開催。日本は1962年（第11回）から参加。

- 参加資格：大会年に22歳以下（一部の職種は25歳以下）。前年の技能五輪全国大会での成績優秀者。各職種1名または1組
- 競技種目：48職種
- 参加国・地域：46
- 参加選手数：816名

第7回 国際アビリンピック

1981年からおおむね4年に1度開催

- 参加資格：15歳以上の障害のある者。過去3回の国内アビリンピックで優秀な成績を修めた者。原則各種目3名まで
- 競技種目：30種目
- 参加国・地域：26
- 参加選手数：378名。今回の日本選手団は、技能競技81名、デモンストレーション、介助者、事務局等を含めて175名



三味線、笙、和太鼓でのアトラクション



ホームページ作成で挑戦する安井謙治さん（滋賀）を会社の仲間が応援



機械CADで頑張る板倉恵美さん（愛知）

November 15

【職業技能競技】 機械CAD・ホームページ作成・データベース作成（応用）・洋裁（婦人服）（基礎）・電子機器組立及びテスト・英文DTP・フラワーアレンジメント・家具製作（応用）・貴金属装身具・精密板金

【生活余暇技能競技】 刺繍

会社の大きな応援を受けて

今日から競技開始！ 海外からの選手も次々と集まり、国際色豊かだ。『技術立国・日本』の名を世界にとどろかせて欲しい、との思いがわいてくる。午前中には、皇太子殿下が見学された。

会場には、企業の人たちがたくさん応援にきている。今大会に七名の選手を送り出した「デンソー」は、「電子機器組立及びテスト」に四名出場する。各選手の職場の上司、同僚が競技を見守っている。指導をしてきたデンソー技研センターの天野正知さん。「練習どおりの力が発揮できたと選手が笑顔で終わってくればと思います。韓国はレベルが高いと思いますね。プラス、メダルが付いてくればもつといいと思っています」

デンソー専務取締役の阿野正敏さんも応援に。「苦しい練習をたくさんしてきたのですから、リラックスして自分の満

足のいくように力を発揮してほしいと思います。聴覚障害者を中心に採用してきましたが、今後はさまざまな障害者を採用して、世の中の障害者率といわれる三％をめざして努力していこうと思っています。大企業には大企業なりの障害者雇用の責任があると思いますね」

「ホームページ作成」の藤田孝子さん。競技を前に、「緊張しています。とにかくミスがないように。昨日の開会式はともいいたい出になりました」

同じく寺田義孝さん。「今までやってきたことを出せればと思います。親も介助で応援にきてくれましたから、メダルは欲しいですね」

「精密板金」でも、会社の応援が熱い。審査員の藤井宗親さん。「課題は事前に公開していますから、日本選手は図面を見てすぐ作業に取りかかっています」

メダルの期待がわいてくる。

ダイキン工業滋賀製作所の職場の人たちが大きな横断幕を広げて、平山一幸さんの競技を見つめる。「一位をめざして欲しい。彼の腕だったらいけると思いますが。緊張していますね。落ち着いて、ゆつくりと」

会沢泰幸選手のお母さん。「競技を見たのは初めてです。こういう大きな大会に参加できたのは誇りです。本人はプレッシャーに弱いので、社長に背中を押されて参加しました。最後までがんばって

欲しいです」

勤務先の山崎工業からは社長以下、ほぼ全員の二二名が朝五時出発で茨城県からバスをチャーターして応援にきた。「日本での国際大会ですので、勉強になると思っていました。本人が挑戦してみろという気持ちがあったからこそここまでこられたのだと思います。かなり緊張しているようですが、メダルをとれば励みになると思います」

「機械CAD」出場の板倉恵美さん。応援のアイシン精機製作工場の上司西尾隆司さんは、「丸いもの」はとりたいですね。紅一点ですので、彼女のプライドと自信になってくれればと思います。車いすでは聴覚障害はハンディがありますので、板倉本人のがんばりをほめてやるべきだと思います」

受賞の選手たち

翌日午前九時。結果発表では、うれしい「メダルラッシュ」。日本選手団は喜びに包まれた。

競技終了後、「実力を全部出し切れました。満足です」とデンソーの応援の人たちに晴れやかな笑顔を見せていた「電子機器組立及



競技の翌朝9時、成績が発表される



建築CAD・田中元将さん(香川)も善戦。銅メダルを獲得

「テスト」の尾村充子さんはみごと金賞に。「びっくりしました。多くの国の選手が参加していたのでドキドキしましたが、自分としては、出来は完璧でした」銀メダルは同じくデンソーの飯田一法さん。「国際大会で競技ができたのはうれしかったです」

「精密板金」は日本選手が金銀銅に。川本忠夫さんは、「思いもよらず、金賞でうれしく思いました。技術をもっと向上させていくよう努力したいと思います」会沢泰幸さん。「びっくりして、頭の中が真っ白です。銀メダルをとれたのはうれしいです。応援はわかりました」平山一幸さん。「銅賞で本当にうれしいです。会社の方たちに大勢きていただいて、うれしかったです。もともと技術を向上させていきたいと思います」

「データベース作成(応用)」も日本選手が金銀銅を独占した。「金以外はうれしくない」と話していた畠山優さん。「信じられない。実際に金メダルを取ってしまおうと、震えますよ」。陶芸工房を主宰。「出場するには金メダルに執着してきましたが、実際に金賞をいただけてびっくりしています。英語の勉強から始めたので、今回はしんどかったです。商品管理、データ

管理に生かしたいと思います」

勝澤崇さんは地元の大きな声援を受けてきた。銀メダル獲得で、地元メディアから質問が集中。「見直しをしても二〇分早く競技を終了でき、時間的な余裕はありませんでした。調子はよかったです」

花東・ブーケ・宴会の卓上花と、華やかな雰囲気で大勢の見物人を集めた「フラワーアレンジメント」は、宇賀谷弥生さんが金メダル。「土日に集中して一年間練習を重ねてきましたので、かなりたいへんでした。金メダルは信じられないです」

山沢清文さんは銀賞、細田恭子さんは特別賞に。

「洋裁―婦人服(基礎)」の澤田デジさんは金メダルとわかったとたん、大泣き。「発表の前はダメだと思って泣いて、金



英文DTP・高橋君江さん(長野)は銀メダル

メダルとわかったときはうれしくて、倍以上泣きました」

「機械CAD」の金メダルは台湾の選手。銀の吉川隆さんと銅の高橋大輔さん。ホッとした笑顔の後、「メチャ、悔しいよ! 海外の選手に負けるとは! 涙が出そう……」

メダルを獲得したのに悔しがるどころが、今回の日本選手のメダルラッシュを象徴している。それでも吉川さんは、「いままでやってきたことは全部出せたと思います。世界を相手に自分の力を試すことができたので、この経験を生かして仕事で活躍していければと思います」高橋さんは「いい経験ができたので、この経験を生かしていきたいと思っています」

板倉さんは特別賞を受賞した。「家具製作(応用)」銀メダルの佐藤浩さんはまもなく就職する。「木工が好きですが、トヨタで働きます」

「貴金属装身具」の黄海昭彦さんは「自分よりずっと技がすごい人がいたと思います。数カ月前から四時間の睡眠時間で準備して精一杯やりましたので、銀賞をいただけてうれしいです」

エブソンミズベの職場の応援を受けた「英文DTP」の高橋君江さん。「入賞すると思わなかったで、銀メダルは自信になります。仕事をもっとがんばりたいと思います」



見学の小・中学生も興味津々

November 16

【職業技能競技】建築CAD・洋裁
— 婦人服（応用）・電子回路接
続・家具製作（基礎）・機械組
立・パソコン組立・写真撮影・ポ
スターデザイン
【生活余暇技能競技】 編物

多数の見学者が会場に

連日、会場は大勢の見学者でにぎわっている。中学生、高校生、養護学校の生徒たちもたくさん見学にきている。清水興津中学校養護学級の一年生と二年生も刺激を受けているよう。

「みんなすごい」

「コンピュータの仕事をしてみたい」
「メカがわかるのがすごい」

引率の先生は、「仕事の現場を見る機会はあまりありません。海外の選手も参加していますし、選手が仕事に打ち込む姿を見て、将来の仕事を考えてほしいです」

静岡聾学校のみなさん。興味のある競技は「フラワーアレンジメント」「家具製作」「パソコン」。

引率の先生は、「障害を持っていても、一生懸命努力して健常者と同じようにがんばっている人がいることを見て、将来、仕事をがんばろうという気持ちになってほしいと思います」

九月に仕事を辞めて、就職浪人中の知的障害者も。「お母さんから見に行つていらつしやいとメールがきました。点字を初めて打たせてもらつて、いろんな人がいるなあ、いろいろな仕事があるなあと思いました」
市の広報などで催しを知ったという市民も多い。
「技術も昔と大分違うので、コンピュータ関係の競技を見たいです」
「大会の規模が大きいのでびっくり。いろいろな職種があるので、見学していただきですね」
「さまざまな国の選手を見ているだけでも、楽しいです」
「選ばれた人たちの技術はすばらしい。障害を乗り越え、競技に打ち込んでいる姿に感動しました」
その中で競技が続く。ポスターデザイナーのテーマは「『ガイア再生』 ウォーク・ラリー・イン・富士山」と「ラブ&ピース」シンポジウム・イン・富士山。競技を前に、小池誠さんは、「ガイアはギリシャ語。ガイアって聞いた時点で、私のイメージかなと。外国人の審査員の感性で、結果はわからないと言われている」
南浩一さんは、「ラブ&ピースのイメージはできていますが、時間内にできるかどうか」

受賞の選手たち

一六日の競技もメダルラッシュだった。「電子回路接続」では、デンソーの三選手が金銀銅を独占。山本勝巳さんは、「メダルは取れるのでは」という自信はありましたが、一位になって驚いています。非常にうれしいです」

今回の技能五輪のポスターのモデルになった松藤真美さん。「練習の結果、銀メダルがとれてうれしいです。細かいICのハンダづけに神経をつかい、短い時間で配線をきれいに形作るのに苦労しました。練習で鍛えてきた忍耐力、精神力、考え方を職場で生かしていきたいと思っています」

橋本真由美さんも「これから技術を磨いていきたいと思っています」

「家具製作（基礎）」はふたつきの木



「もうひと頑張りだ」。
ポスターデザイン・南浩一さん（埼玉）



「やったぜ」。家具製作（基礎）で、金メダルの杉戸正輝さんと銅メダルの山本真也さん



（株）デンソーの3選手が金・銀・銅を独占した電子回路接続

箱を製作した。日本三選手が一、二、三位。金メダルの杉戸正輝さん。「土日の仕事の休みに、卒業した職業訓練校で練習してきたので、先生はすごく喜んでくれました。将来はタンスを作ってみたいです」

銀メダルの本田哲郎さん。「いままでの練習の結果、銀メダルを取ることができて、非常にうれしいです」。

「洋裁―婦人服（応用）」は高瀬登志子さんが金メダル。「緊張しましたが、普段どおりにできたと思います。いつもは手作業をしていなかったので、勉強が必要でした」

「編物」では、村田芳枝さんが金賞に。課題の帽子をベージュの濃淡の毛糸で編

み上げた。「普段の練習どおり、間違えずにできてよかったと思っています」

「建築CAD」銀メダルの蔵田健治さん。「競技課題を終えたのは時間ギリギリ。入賞するとは思っていなかったの、たいへん喜んでいきます。ほかの人のCADの描き方を見ることができ、いい経験になりました。これから幅を広げていこうと思っています」

「パソコン組立」の彌勒純一さんは、種目を変えて国際大会三回目の出場だ。「初めて銀賞を取ることができて、とてもうれしいです」

「ポスターデザイン」は静岡の小久江寛さんが銀賞。「ガイア再生なので、生き物としての地球をとらえて、少し動きのあるデザインにしたのがよかったのかと思います」

小池さんは特別賞。「いつもはマック。ウインドウズの英語版を使ったので苦労しました。自分の感性を精一杯出したので満足です。諦めていたので、人生のこういうふうでうれしいです」

「機械組立」は、自転車の組立だった。地元静岡から最年長七七歳で出場した増田中夫さんが銅メダル。「失敗が頭から離れないのですが、地元の大会でメダルを取れてうれしかったです。少しは名前を知っていただいたので、障害のある人たちに自転車の修理、組立の技術を無料で教えていきたいと思います」

海外の選手も活躍した。

「機械組立」の金メダルは韓国のサク・ソーンさん。自転車の販売店に勤め、修理の仕事をしている。「実力は発揮できた。成績発表が楽しみ」と語っていたとおりの結果。

同じく「機械組立」に出場したチェコ共和国のブラステイミ・フレーグルさんの本職は木のおもちゃ作り。「ツリー・パッド！ チェコではみんな自転車に乗っています、パーツから組み立てることはほとんどないので。でも、参加できてとても満足。開会式は非常によかったです」

オーストリアのエルギス・メイスリンゲルさん。日本製のカメラを手に「写真は趣味」と。「撮影場所を見つけるのがたいへんでしたが、結果的にうまくいきました。病院で老人介護の仕事をしています。メダルをほしいですね……」



（上）機械組立で金メダルの韓国のサク・ソーンさん
（下）チェコ共和国のブラステイミ・フレーグルさん



英文DTPで銀メダルを獲得した
インドのロビン・アローラさん



アフリカ・ルワンダから刺繍で、アニエスさんが一人参加



アラブ首長国連邦からも11名が参加

各国の選手も活躍

November 17

【職業技能競技】義肢・籠製作・コンピュータプログラミング・データベース作成（基礎）・歯科技工・英文ワープロ・洋服・紳士服・木彫

【生活余暇技能競技】絵画・陶磁器

今大会には二六カ国から三七八名の選手が競技に参加した。初参加の国も五カ国。アラブ首長国連邦もその一國で、一名の選手が「パソコン組立」「写真撮影」「英文ワープロ」「刺繍」「絵画」などに出場した。就労している人が二人、そのほかは学生だそう。男性と女性の役員の感想。「とても組織がよくできていて、聴覚障害、知的障害の人たちを連れてきました。サポートがすごくいいと思います。参加することに意義があるので、成績は気にしていません」

ルワンダからはアニエスさんが一人「刺繍」に参加した。刺繍の飾り、バナナを利用したポストカードなどの販売で自立を図る女性障害者グループのリーダーだ。「自分ではよくできたので満足しています。日本は遠かったですが、みなさん親切で、いまのところ全部すばらしい」

同じく初参加のパキстанは「写真撮

影」「編物」にエントリー。メディアの仕事をしているというムハンマド・モビン・ウディンさんは競技中もリラックス。「楽しんでいきます。金メダルは一一〇パーセント確実！」とVサイン。「日本はベリーナイス。親切で礼儀正しい。事故で車いすになって、初めて障害のことを考えた。パキスタンでのリハビリテーションはまだなので、日本に学びたい」。入賞を逃しても「ノー・プロブレム！」

前回の開催国、インドの役員からは注文も。「どこの大会でもそうですが、言葉が大きな問題だと思います。刺繍のテーマは『夢』という漢字でしたが、海外の選手にはむずかしいと思います。ベジタリアンの食事もう意されていますが、それを超えてみなさんがフレンドリーで、一生懸命に助けてくれるのが伝わってきてすばらしいです」

その「刺繍」では銀賞を獲得！日本は入賞できなかった……。「英文DTP」も、聴覚障害のロビン・アローラさんが銀賞に。英語を口話で読み取る。「とてもうれしい。自分でもできたと思っていました。出版社でコンピュータグラフィックスの仕事をしています」

インドネシア選手団は遅れて到着。初日の「フラワーアレンジメント」にやっと間に合った。競技参加はスリ・プリヤンティニさんだけ。「一一〇パーセント

満足ではありませんせんが、がんばりました」

マレーシアの選手は、浴衣をプレゼントされて大喜び。インドネシア語通訳の静岡産業大の留学生ティサさんの通訳で。

「日本で着物を買いたいと思っていたので、すごくうれしい」

「着物も富士山も、きれ

い」

マレーシアの役員は、「障害者は、コンピュータ、手芸、一般事務、弁護士など、健常者と同様に活躍しています。静岡は障害者にフレンドリーですね。常夏の国ですから、寒くなってきたのでちょっと心配」

「木彫」と「絵画」で二位に入賞した。

スロバキアは「洋裁」「編物」「フラワーアレンジメント」「ホームページ作成」など一一種目に参加して、「刺繍」が銅賞に。選手団のサポートとスロバキア語と英語の通訳のシルビアさん。「開会式



マレーシアの役員



和裁のブースからプレゼントされた浴衣姿で見学するマレーシアの選手たち



スロバキア語の通訳として活躍するシルビアさん

ABILYMPIC 2007

パキスタンの
ムハンマド・モビン・ウディンさん



ABILYMPIC

ABILYMPIC

の太鼓のパフォーマンスはすばらしかった。皇太子殿下にお会いできて感動しました。技能五輪の選手と一緒に入場行進ができたのがよかったと思います。選手たちはみんながんばりました」

競技は今日で最終日。土曜日とあって、市民の見学が多い。「絵画」に出場する板倉由夏さんは応援の人たちにVサイン。テーマは「動物と人間のいる暮らし」。どんな絵ができるかが楽しみだ。

「英文ワープロ」も始まった。「福岡県にメダルを持って帰りたい」と重定さんを応援する化成フロンティアの人たち。「コンピュータプログラミング」の競技は六時間。最後に図形を描くので、見学者も興味津々だ。鈴木邦彦さんを伯父伯母が真剣なまなざしで見つめている。「本人を刺激したらいけないと思って隠れて見ていたのですが、わかってしまいました」

細澤安仁さんは地元企業「メディアベイス」でホームページを作成している。徹夜で作ったという寄せ書きの横断幕を掲げて、会社の人たちが応援。

「一緒に戦っている気持ちです」「いけると思いますよ」社長の折山純司さんは、

「彼は障害を乗り越えてきたので、生まれたばかりのお子さんのためにもぜひ金メダルをとってほしいですね」

受賞の選手たち

連日のメダルラッシュに、入賞は当たり前のようになってくる。一七日の競技の結果、「コンピュータプログラミング」は金銀銅。細澤安仁さんは金メダルに輝いた。「絶対優勝するという気持ちで練習してきた、これ以上無理だという競技はできなと思います、自分が想定できないようなプログラムを組んでいた富高さんと韓国の選手を見たとき、すごいと思いました。選手宣誓して優勝できて、現実なのかと信じられないうです。会社の人たちに恩返し的なことができたかなと思います、今度は仕事で結果を残したいです。長男に自慢できるかな」「全力を尽くします。結果は後からついてくる」と語っていた富高孝一さんは銀メダル。「全力を出したのですが、図形の正確さ、美しさでかなりポイントを落としていたと思います。入賞はむしろかしいと思っていたので、銀賞はうれしいです」

鈴木さんも三位に入賞した。

歯科技工も金銀銅でフィニッシュ。

「緊張しましたが、いい結果が出てよかったです。これからは金を取れたとい

う自信を持って仕事をしていくことができると思います」(末川孝浩さん)

「銀賞を受賞できてとてもうれしい。日本選手が金銀銅を取れてよかったです」(藤井理仁さん)

「国際大会のレベルの高さを感じましたが、自分のベストを出せたので満足です」(高木茂晴さん)

「データベース作成(基礎)」も金銀銅に。

「この大会のためにパソコンデータ入力を一生懸命に練習してきました。その結果、金メダルをとれて、とてもうれしいです」(豊川和弥さん)

「義肢」は銀銅賞に。銀の伊藤則彦さんは、「入賞できるとは思っていなかったもので、うれしいです」

「洋服―紳士服」は、静岡の瀧こと代さんが銅賞。「大勢のみなさんに応援していただいたので、これで安心して帰れます」

「英文ワープロ」の重定知佳さんは三位に。「今回、プレッシャーは大きかったです。絶対ダメだと思っていたので、うれしいの一言です」

三日間の競技は、滞りなく終了した。手際のいい競技運営は、さすが日本だ。



連日のメダルラッシュで、記者会見場も忙しい

ABILYMPIC

ABILYMPIC



2007ワークフェア会場



国際会議

本誌編集委員（松井、金子、朝日の各氏）も座長や講演者として参加

November 15~17
国際会議 ワークフェア など

充実の国際会議

一六日には、「Good Skills, Good Job, Realizing a Society for All」＝「障害の有無にかかわらず、誰もが優れた技能を身につけ、適した職業に就くことにより、職業的自立と社会参加を実現できるユニバーサル社会をめざす」をテーマに国際会議が行われた。

全体会議では、ILO障害担当上級専門官のデボラ・ペリーさんが「障害者雇用・訓練の国際的動向」、マクドナルドインターナショナルHRシニアバイスプレジデントのドン・クロスビーさんが「企業ビジョンに見るマクドナルドの障害者雇用促進」、キヤノン人事本部ヒューマン・リレーションズセンター所長の「大野和人さんが「人間尊重による人事管理とは」をテーマに講演、午後は分科会が開かれた。

盛況のワークフェア

競技期間中、競技会場と通路を挟んだツインメッセ北館では、2007ワークフェアが開催された。

「職場」就労支援」「テクノロジ」「ユニバーサルデザイン」「雇用の制度」のテーマごと「参加各国の展示、デモンストレーション」のブースが並び、歩くのめたいへんなほどのにぎわいが続いた。

その中では、今大会で実施されなかった競技のデモンストレーションも。「和裁」は渡並裕子さんが縫い上げた浴衣を抽選でプレゼント。「年配の方はなつかしいと言って、コテやくけ台を見ていきます」

「パソコン操作」は、視覚障害者三人が画面読み上げソフト、文字拡大ソフト、点字ディスプレイなどの機器を使い、実演した。

「喫茶サービス」「パン・クッキー」は、二人が焼き上げたスワンベーカーリーの菓子パンを、七人が交代でコーヒードン・クロスビーさんが花束を手に来店して、岐阜県内のお店で働く千田恵さんにプレゼントした。

特設ステージでは、歌、パフォーマンストイイベントが続く。各国のブースも見学の人がいっぱい。民族衣装を着せ



見学者も参加し、スワンベーカーリーのメンバーとパンづくり



藤田恵美さんの「心のバリアフリー音楽会」

てもらい、記念撮影をするグループも。ワークフェアに出展していたアクセスインターナショナルの山崎泰広さんは、今大会のユニバーサル監修専門プロデューサーを務めた。皇太子殿下とは中学時代の学友。「見学を終えた皇太子殿下から、『今日は本当によかった』と言われたのがうれしかったです」

「静岡のおもてなし」では、静岡の人と技を紹介。技能五輪の「おもてなし料理コンテスト」シーフード部門グランプリ「炙り金目鯛の棒寿司」入りの「アビリンピックおもてなし弁当」もある。

南北プロムナードでは、



米国マクドナルド本社から訪れたドン・クロスビー副社長から花束のプレゼントに感激する「喫茶サービス」の千田恵さん（マクドナルド岐阜各務原店で働いている）



外添要一厚生労働大臣



閉会式

閉会式

November 18

大会期間中、好天気が続いたが、閉会式も雲一つない快晴。連日の冷え込みで、会場周辺の木々の紅葉は進み、富士山の頂きも輝きを増したようだ。

閉会式は一三時から、芸術祭が始まった。桑の木園芸能クラブの石見神楽「八

お茶、わさび、焼津黒はんぺんなど静岡名産が並び、富士宮焼きそば、しずおかおでん、桜えびのかき揚げ井などに長い列……。

そのほか、障害者の美術展や障害者雇用支援月間ポスター原画展も開催。各国選手団が小中学校を訪問して国際交流を行う「静岡フレンドシッププログラム」、県立美術館や駿府公園などの観光地、障害者雇用優良事業所など見学する「エクスカリシオン」と、盛りだくさんのプログラムが行われた。

ユニバーサル技能五輪のボランティアは延べ五五〇〇人、国際アビリンピックは障害のある人たちも含めて、延べ八〇〇人。地元の福祉系の大学と専門学校も協力。チラシ配り、インフォメーション、交通整理、ＩＴサポートなど、「おもてなし」を支えた。

記念品贈呈などの後、五月女英介国際アビリンピック連合会長から次の開催国、韓国選手団長のパク・ウンスさんに大会旗が渡る。「二〇一一年に韓国でお会いしましょう！」との呼びかけに、会場からは大きな拍手。戸荻利和日本組織委員会副会長が、国際アビリンピックにかかわったすべての人たちに感謝の言葉を述べ、表彰式は終了した。

「おめでとう！ 世界一 尾村充子さん」の横断幕を作って駆けつけたデンソーボデー機器製造部のみなさん。七名をサポートした天野さんは、会社をあげての応援に。「ありがたいと思います。練習どおりにできたと笑顔で終えられたのがよかったと思います」

引き続き、さよならパーティー。たくさんの料理が並ぶ。選手たちは記念写真を撮りあったり、お互いの健闘をたたえあったり。その輪の中で、戸荻副会長に聞いた。「技能五輪国際大会と同時に開催でしたので、事前の準備はたいへんでしたが、いい大会だったと思います。皇太子殿下をお見送りしたとき、『たいへんすばらしい大会です』とお言葉をいただきました。選手のみなさんは実力を発揮したと思います。一二個も金メダルが取れて、こんなうれしいことはないですね」

日本選手団は大活躍、海外の選手団にもよき思い出を残して、第七回国際アビリンピックは五日間の幕を閉じた。



表彰式。金メダル12個を獲得した日本選手



おめでとう！ “世界一” 尾村充子さん
—— 第七回国際アビリンピック 電子機械部 立身技芸競技 “金メダル” 獲得 ——
DENSO 77-000000

(株)デンソーの選手たちはメダル5個（金2、銀2、銅1）と活躍。応援の会社の皆さんと